

製品名: YB-1 (リン酸化 Ser102) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05640**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	36kDa

抗原情報

遺伝子名	YBX1
別名	YBX1; NSEP1; YB1; Nuclease-sensitive element-binding protein 1; CCAAT-binding transcription factor I subunit A; CBF-A; DNA-binding protein B; DBPB; Enhancer factor I subunit A; EFI-A; Y-box transcription factor; Y-box-binding protein 1; YB-
遺伝子 ID	4904.0
SwissProt ID	P67809
免疫原	抗血清は、Ser102 のリン酸化部位周辺のヒト YB1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 68-117

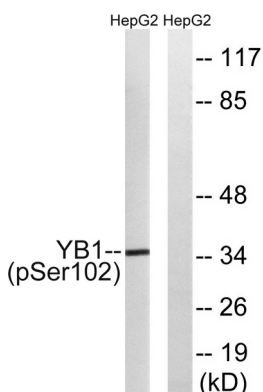
背景

この遺伝子は、広範な核酸結合特性を持つ、高度に保存されたコールドショックドメインタンパク質をコードしています。コードされているタンパク質は DNA と RNA の両方の結合タンパク質として機能し、転写と翻訳の調節、pre-mRNA スプライシング、DNA 修復、mRNA パッケージングなど、多くの細胞プロセスに関与しています。また、このタンパク質はメッセンジャーリボ核タンパク質 (mRNP) 複合体の構成要素でもあり、マイクロ RNA のプロセッシングに関与している可能性があります。このタンパク質は非古典的経路によって分泌され、細胞外ミトジェンとして機能します。この遺伝子の異常発現は、多くの組織における癌の増殖と関連しています。この遺伝子は、特定の癌における予後不良および薬剤耐性の予後マーカーとなる可能性があります。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。この遺伝子の擬似遺伝子は、複数の染色体上に存在します。[RefSeq 提供、2015 年 9 月]、機能: pre-mRNA のスプライス部位に結合し、スプライス部位の選択を制御します。細胞質 mRNA に結合し、安定化させる。mRNA と真核生物の翻訳開始因子との相互作用を調節することで、翻訳制御に寄与する (類似性による)。HLA クラス II 遺伝子など、Y ボックス (5'-CTGATTGGCCAA-3') を含むプロモーターに結合する。多数の遺伝子の転写を制御する。ミスマッチを含む、またはシスプラチンによって修飾された DNA 鎖の分離を促進する。エンドヌクレアーゼ活性を有し、二本鎖 DNA に切断や切断を導入する可能性がある (in vitro)。DNA 修復において役割を果たす可能性がある。PTM: DNA を損傷する因子に反応して、20S プロテアソームプロテアーゼによって切断される。切断はユビキチン化および ATP が存在しない状態で起こる。得られた N 末端断片は核内に蓄積する。PTM:リン酸化がない場合、タンパク質は細胞質内に保持される。類似性:1 つの CSD (コールドショック) ドメインを含む。細胞内局在:核と細胞質の間を往復する。増殖細胞では主に細胞質に存在する。細胞傷害性ストレスや DNA 損傷は核への移行を促進する。サブユニット:細胞質メッセンジャーリボ核タンパク質粒子 (mRNP) の構成要素。AKT1、SFRS9、THOC4、MSH2、XRCC5、WRN、NCL と相互作用する。ホモマー型 (EFI-A) n として、または EFI-B と共役してヘテロマー型として DNA に結合することができる。ATP 存在下ではホモダイマーとなる。

研究分野

タグとセルマーカー

画像データ



PMA 125 ng/ml 15分処理した HepG2 細胞ライセートの YB1 (リン酸化 Ser102) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。